

指定管理者評価シート

事業名	青少年山の家運営管理費	所管課(電話番号)	教)生涯学習推進課 (211-3872)
-----	-------------	-----------	----------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年山の家	所在地	南区滝野247番地
開設時期	平成元年9月	延床面積	5,234㎡
目的	自然環境の中における宿泊を伴う集団生活、野外活動その他の活動を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的とする。		
事業概要	野外活動の指導助言・普及振興・調査研究、施設の利用調整など		
主要施設	管理研修棟、宿泊等、多目的ホール		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	①統括管理業務 ②施設・設備等の維持及び管理に関する業務 ③施設における事業の計画及び実施に関する業務 ④施設の利用等に関する業務 ⑤前各号に掲げる業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 平成30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 平成30年4月より新たな指定管理業務期間を迎え、今後の5年間を見据えた中長期的な視点に立ち「非常時を生き抜くための力を育むプログラム」「学校教育と連動した野外学習プログラム」「ESD・SDGsの視点を意識したプログラム」等の調査・研究開発を行った。 あわせて、施設が持つ3つの機能(自然体験の場、自然環境における集団生活の場、野外活動研修の場)を最大限に発揮した運営を行うため、南区の持つ地域資源である札幌軟石を生かした事業、滝野すずらん丘陵公園の豊かな自然環境やフィールドを活用した事業の実施をとおして地域や関係機関とのつながりを強化した。	南区の地域資源である「札幌軟石」をテーマとした事業を実施し、その歴史的な価値と魅力を市民に伝えた。また、滝野すずらん丘陵公園との連携強化を図り、主催事業で公園施設の活用を図ったほか、公園主催イベントへの運営協力を行うなど連携強化につながった。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 施設の設定目的に合致した基本方針を策定し、適正な施設運営が遂行された。 また、中長期的な視点で社会的課題の解決に寄与する新たなプログラムの調査等を行うとともに、滝野すずらん丘陵公園と連携し、魅力あるプログラムの提供に努めており、評価できる。 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	施設の設定目的に合致した基本方針を策定し、適正な施設運営が遂行された。 また、中長期的な視点で社会的課題の解決に寄与する新たなプログラムの調査等を行うとともに、滝野すずらん丘陵公園と連携し、魅力あるプログラムの提供に努めており、評価できる。			
A	B	C	D								
施設の設定目的に合致した基本方針を策定し、適正な施設運営が遂行された。 また、中長期的な視点で社会的課題の解決に寄与する新たなプログラムの調査等を行うとともに、滝野すずらん丘陵公園と連携し、魅力あるプログラムの提供に努めており、評価できる。											

<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>正当な理由なく市民の施設利用を拒んだり、施設利用について不当な差別取り扱いをしてはならないとする地方自治法第244条を遵守するとともに、札幌市青少年山の家条例をはじめ、関係法令、社会通念を鑑み、すべての市民及び団体に対して平等利用を確保した。</p> <p>また、障害者差別解消法を遵守するとともに、札幌市の対応方針を参考に公の施設として札幌市に準じた取り組みを行った。</p>	<p>使用承認に関するあらゆる事項に関して、札幌市青少年山の家条例、同条例施行規則及び各種取扱要領等への理解と利用者対応について、常に確認し職員の意識と対応の統一を図った。</p>	<p>平等利用を確保するための方針及び取組項目が明確化されているほか、職員が共通認識をもって利用者対応にあたっており、適切に取り組んでいる。</p>
<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>札幌市の環境方針及び札幌市の環境マネジメントシステムに基づいて作成した職員行動マニュアルに沿って、職員一人ひとりが行動を起こせるよう、職員研修をとおして環境教育の充実を図った。</p> <p>また、エネルギー使用量の削減について、事業活動のあらゆる場面で訪れる市民とともに行動できるよう取り組んだ。</p>	<p>SDGs(持続可能な開発目標)に関する職員研修を実施した、公認ファシリテーターの資格を有する職員によるカードゲームをとおして、SDGsについて山の家職員が理解を深めた。さらに、業務の中で環境配慮のために取り組めることを話し合い、行動に移した。</p>	<p>職員研修の実施や利用者への啓発などにより、環境配慮の推進に努めている。</p>
<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>山の家の統括責任者として野外施設部長を配置し、当財団が指定管理者として管理運営する定山溪自然の村及び北方自然教育園並びに財団が自主運営する滝野自然学園を含め、関連する施設の運動(事業、人材育成)を意識して取り組んだ。</p> <p>山の家が設置されている国営滝野すずらん丘陵公園を管理する管理事務所及び公園の指定管理者であるSPAC滝野管理センターとも良好な関係を維持し、事業連携へ向けての足掛かりを作ることができた。</p> <p>また、管理業務計画書に基づき、1年をとおして、職員の資質向上を目的に研修を実施した。</p>	<p>環境教育(ESD、SDGs)に関する外部研修の機会を積極的に活用し、専門的知識の獲得や新しい情報の習得を行い、研修終了後に職員間で共有するなど事業運営の参考とした。</p>	<p>管理運営組織が確立されており、また、SDGsなど多様化する社会ニーズに対応するため、積極的に人材育成に努めており、評価できる。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>利用者アンケートや利用者とのコミュニケーションをとおして、寄せられた要望・意見に関する情報を職員間で共有し、取組が可能な事項から改善することにより管理水準の維持向上に努めた。</p> <p>また、当財団独自の総合ネットワークシステムにて財団全体で、山の家内での情報共有を行った。なお、情報管理については、当財団個人情報取扱規程に基づき、管理を行った。</p>	<p>当財団独自のネットワークシステムを活用し、ローテーション勤務で全員が顔を合わせる機会が少ない中でも情報共有を図ることができた。また、財団内の野外活動部門におけるビジョンミーティングを実施し、中長期の未来像を見据えた上で次年度の研修計画を策定した。</p>	<p>システムの活用により、指定管理者内で情報共有が図られている。また、中長期の見通しに基づいた研修計画が策定されており、管理水準の維持向上が期待される。</p>

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

資格及び専門的知識や経験を必要とする業務については、札幌市及び当財団の登録業者から選定し入札等により選考した業者に委託した。
また、業務契約に基づき適切に業務が行われるよう、必要な指導、指示、検査及び確認を行った。
第三者に対する委託業務は以下のとおりである。

- ・警備業務 ・清掃業務 ・給食業務
- ・滝野の森口門衛業務 ・除雪作業業務
- ・建築物環境衛生管理技術者委託業務
- ・複合機賃貸借業務
- ・事務機器賃貸借業務 ・サーバー機器賃貸借業務
- ・AED(自動体外式除細動器)賃貸借業務
- ・束薪・井桁薪購入業務
- ・塵芥処理業務 ・リネンサプライ業務
- ・利用状況管理システム保守業務
- ・自動販売機による商品の販売業務
- ・道銀ビジネスWEBサービス
- ・ねずみ衛生害虫等防除業務
- ・自家用電気工作物保安全管理
- ・屋内外雑排水管清掃
- ・汚水槽、グリスビット清掃
- ・消防設備保守点検
- ・地下タンク、埋設管点検
- ・水質検査
- ・空気環境測定
- ・受水槽・貯湯槽等清掃消毒点検
- ・石油燃焼機器点検
- ・浴場循環装置(ろ過機)清掃
- ・高温風暖房機保守点検
- ・多目的ホール吸煙装置保守点検
- ・小荷物専用昇降機保守点検
- ・研修棟温水ボイラー煤煙濃度測定
- ・研修棟ボイラー整備

委託業務の履行にあたり、市民サービスの向上について配慮するとともに、利用者の安全を十分に確保できるよう進めた。

第三者への業務委託はいずれも適正に実施された。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回	平成30年6月4日(月) ・平成30年度から34年度の管理業務計画書について ・平成30年度事業計画について ・平成29年度主催事業の様子(DVDにて) 【出席者8名】
第2回	平成30年11月16日(金) ・平成30年度利用状況、アンケート調査結果、主催事業について ・台風、地震の被災状況について ・意見交換『平成31年度の事業計画について』 【参加者8名】

各委員から、日々の業務に対するお褒めの言葉をいただいたほか、施設運営、事業に対してアドバイスをいただいた。
また、第2回目は次年度の事業計画についてご意見をいただいた。

運営協議会では、施設運営上の課題について有意義な意見が多く出されたことから、今後の施設運営に役立てていきたい。
滝野公園連絡会議をはじめとした関連団体との会議に積極的に参加し、関係機関と良好な関係が維持されている。

<協議会メンバー>

- ・札幌市教育委員会 生涯学習推進課長
- ・国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部
国営滝野すずらん丘陵公園事務所長
- ・札幌市小学校長会 事務局次長
- ・公益社団法人札幌市子ども会育成連合会
本部 事務局次長
- ・北翔大学 生涯スポーツ学部
スポーツ教育学科教授
- ・芸術の森地区町内会連合会会長
- ・滝野町内会会長
- ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
野外施設部長

【滝野公園連絡会議】

- ・日 程 月1回定例、年間12回開催
- ・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所
滝野管理センター
- ・内 容 月の利用状況等の確認、
協議連絡事項

会議以外にも、主催事業で公園施設の活用を図ったほか、公園主催イベントへの運営協力などをおして、連携強化を図った。

【滝野公園安全衛生会議】

- ・日 程 5～3月(月1回)、年間11回開催
- ・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所
滝野管理センター
公園内工事等の各業者
- ・内 容 月の工事予定、安全管理について

【CISEネットワーク会議】

- ・日 程 年間3回程度開催
- ・メンバー 北大総合博物館を中心とした札幌市
周辺の教育施設(25施設)
- ・内 容 地域住民に実物科学教育を進める

合同イベントをおして情報交換を行い、事業のレベルアップにつなげた。

【生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議】

- ・日 程 年間1回 開催
- ・メンバー 札幌市内の生物多様性関連19施設
- ・内 容 生物多様性に係る連絡調整
及び事業の実施

【RCE北海道道央圏協議会】

- ・日 程 年6回程度開催
- ・メンバー 酪農学園大学農食環境学群環境共生学
類
北海道大学大学院地球環境科学研究院
札幌市環境局環境都市推進部
NPO法人EnVision環境保全事務所
公益財団北海道環境財団
北海道中小企業家同友会札幌支部ほか
- ・内 容 総会、運営委員会、情報共有

道央圏におけるSDGs関連事業の情報収集とネットワーク構築のための検討が行われ、視野拡大につながった。

	<p>【北海道青少年教育施設会議】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・日 程 年間5回程度開催 ・メンバー 国立日高青少年交流の家 国立大雪青少年自然の家 ネイパル砂川 他北海道青少年教育施設協議会加盟施設(全17施設) ・内 容 総会、役員会、研修会</p> </div> <p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>当財団が定める処務規程と金券等取扱要領に基づき金銭の取扱い及び経理事務を適正に行った。財団における内部監査を10月に実施し、その後、所管による指定管理財務・業務検査を3月に実施した。今後は、各マニュアル作成について出された指摘を踏まえた取組を行っていく。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>苦情の対応にあたっては、「迅速・適切・真摯・平等」な対応を心がけ、利用者の立場に立って迅速に対応した。また、対応後は職員間でその内容を共有し次に生かした。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>マネジメントシステム(PDCAサイクル)を実践し、利用統計、利用者アンケート、利用者の声、職員の自己評価を反映させ、次年度の事業計画に反映した。</p>	<p>研修会以外にも、9月の北海道胆振東部地震の時に、地震前後の対応策等について情報交換を行い、山の家の管理体制を整えた。</p> <p>特に、現金の取扱いについては、複数職員による確認を徹底し、管理部門責任者は必要書類・帳簿のチェックを行い、適宜、収入事務が適正に行われているか確認を行った。</p> <p>アンケート受領時に代表者の方から直接内容を確認し、原因分析の材料とした。それを利用対応につなげ、苦情の低減とともに利用満足度の向上に努めた。</p> <p>利用者からの要望を受け、利用書類の簡便化に向けた整理を行い、平成31年4月より運用を開始している。</p>	<p>財務検査の結果、適正に実施されていることを確認した。</p> <p>要望・苦情に対しては、迅速かつ適切な対応が取られていた。</p> <p>業務検査の結果、適正に記録・管理されていることを確認した。利用者の声を反映し、利便性の向上に努めていきたい。</p>								
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>労働基準法、労働安全衛生法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等の労働関係法令を遵守するため、就業規則を整備し、必要な届出等を行うとともに適切な労務管理を行った。また、メンタルヘルス不全者の対応及び予防として、財団内部において相談受付の体制を取るとともに、様々な相談に対応できる窓口を外部に設置し、職員が心身ともに健康で業務を遂行できるよう、一人を抱え込まない環境づくりを行った。</p>	<p>働き方改革関連法案に対応できるよう、労務管理やシニア層の活用といった内容の外部研修会に積極的に参加し、雇用環境の維持向上に取り組んだ。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていきたい。			
A	B	C	D								
適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていきたい。											

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)	9月に発生した台風及びその直後の北海道胆振東部地震の際には、滝野公園管理者、市教委及び関係機関と情報共有を図り対策を講じることに よって、利用者への的確な情報を伝え、安全確保を図ることができ、利用団体への影響を最小限に留めることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">職員に対し、危機管理・事故防止に係る研修を実施している。研修内容やマニュアル等の見直しを適宜行い、職員が緊急時に適切な対応できるよう、継続して取り組んでいたきたい。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">関係機関との迅速な情報共有により、利用者等の安全が確保されるような体制の確立を目指していたきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。				職員に対し、危機管理・事故防止に係る研修を実施している。研修内容やマニュアル等の見直しを適宜行い、職員が緊急時に適切な対応できるよう、継続して取り組んでいたきたい。				関係機関との迅速な情報共有により、利用者等の安全が確保されるような体制の確立を目指していたきたい。			
	A			B	C	D													
館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。																			
職員に対し、危機管理・事故防止に係る研修を実施している。研修内容やマニュアル等の見直しを適宜行い、職員が緊急時に適切な対応できるよう、継続して取り組んでいたきたい。																			
関係機関との迅速な情報共有により、利用者等の安全が確保されるような体制の確立を目指していたきたい。																			
▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td> 1. 自家用電気工作物保安管理(毎月実施 12回) 2. 受水槽・貯湯槽等消毒点検(年1回4月実施) 3. 空気環境測定(年6回実施 偶数月) 4. ねずみ衛生害虫等防除業務(年2回実施、4月、11月) 5. 水質検査(年2回実施 8月、1月) 6. 屋内外雑排水管清掃(年2回実施 7月、11月) 7. 汚水槽・グリスピット清掃(年2回実施 7月、11月) 8. 消防設備点検(年2回実施 6月、12月) 9. 地下タンク・埋設管点検(年1回6月実施) 10. 研修棟ボイラー煤煙濃度測定(6月、12月) 研修棟ボイラー整備(11月) 11. 多目的ホール吸煙装置保守点検(年1回7月実施) 12. 石油燃焼機器点検(年1回実施 8月) 13. 小荷物専用昇降機保守点検(年1回10月実施) 14. 床面ワックス(年1回9月実施) 15. 照明器具清掃(年1回12月実施) 16. 浴槽循環装置(ろ過器)清掃(年1回11月実施) 17. 高温風暖房機保守点検(年1回12月実施) 18. 建築物環境衛生管理技術者(毎月実施12回) ※第三者(専門業者)委託による点検 </td> <td data-bbox="992 877 1170 974">法令に基づき点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。</td> <td data-bbox="1179 877 1344 974">法令及び要求水準に基づき、適正に業務が実施された。</td> </tr> </tbody> </table>	1. 自家用電気工作物保安管理(毎月実施 12回) 2. 受水槽・貯湯槽等消毒点検(年1回4月実施) 3. 空気環境測定(年6回実施 偶数月) 4. ねずみ衛生害虫等防除業務(年2回実施、4月、11月) 5. 水質検査(年2回実施 8月、1月) 6. 屋内外雑排水管清掃(年2回実施 7月、11月) 7. 汚水槽・グリスピット清掃(年2回実施 7月、11月) 8. 消防設備点検(年2回実施 6月、12月) 9. 地下タンク・埋設管点検(年1回6月実施) 10. 研修棟ボイラー煤煙濃度測定(6月、12月) 研修棟ボイラー整備(11月) 11. 多目的ホール吸煙装置保守点検(年1回7月実施) 12. 石油燃焼機器点検(年1回実施 8月) 13. 小荷物専用昇降機保守点検(年1回10月実施) 14. 床面ワックス(年1回9月実施) 15. 照明器具清掃(年1回12月実施) 16. 浴槽循環装置(ろ過器)清掃(年1回11月実施) 17. 高温風暖房機保守点検(年1回12月実施) 18. 建築物環境衛生管理技術者(毎月実施12回) ※第三者(専門業者)委託による点検	法令に基づき点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。	法令及び要求水準に基づき、適正に業務が実施された。															
1. 自家用電気工作物保安管理(毎月実施 12回) 2. 受水槽・貯湯槽等消毒点検(年1回4月実施) 3. 空気環境測定(年6回実施 偶数月) 4. ねずみ衛生害虫等防除業務(年2回実施、4月、11月) 5. 水質検査(年2回実施 8月、1月) 6. 屋内外雑排水管清掃(年2回実施 7月、11月) 7. 汚水槽・グリスピット清掃(年2回実施 7月、11月) 8. 消防設備点検(年2回実施 6月、12月) 9. 地下タンク・埋設管点検(年1回6月実施) 10. 研修棟ボイラー煤煙濃度測定(6月、12月) 研修棟ボイラー整備(11月) 11. 多目的ホール吸煙装置保守点検(年1回7月実施) 12. 石油燃焼機器点検(年1回実施 8月) 13. 小荷物専用昇降機保守点検(年1回10月実施) 14. 床面ワックス(年1回9月実施) 15. 照明器具清掃(年1回12月実施) 16. 浴槽循環装置(ろ過器)清掃(年1回11月実施) 17. 高温風暖房機保守点検(年1回12月実施) 18. 建築物環境衛生管理技術者(毎月実施12回) ※第三者(専門業者)委託による点検	法令に基づき点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。	法令及び要求水準に基づき、適正に業務が実施された。																	

	<p>▽ 防災</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・消防総合訓練(消火、通報、避難)/年2回実施 (実施日:5月21日、平成31年1月27日)</p> </div>	<p>外部講師を招き、山の家で起こりうる様々な災害を想定しながら実施し、非常時に実際に行動できる体制を整えた。</p>	<p>非常時に利用者の安全を確保するための防災体制が構築されている。今後も、様々な事例を想定し、万全の準備をするよう努めること。</p>																												
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 施設利用に係る利用者への指導助言</p> <p>山の家を利用する各団体の活動が、安全で効果的に行われるよう利用団体のサポートを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係及び一般利用団体への指導助言 事前調整(プログラム立案等) 入館式オリエンテーション 入館後の打合せ(利用料金收受等) 活動の支援(活動物品の貸出等) 夜間対応(緊急対応等) 退館式 ・学校関係に対する指導助言 事前学習(出前授業等) 当日プログラム(指導助言等) ・学校関係に対する事業 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">事業名</th> <th style="width: 50%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合同説明会(10回)</td> <td>179校 208名</td> </tr> <tr> <td>合同下見会(5回)</td> <td>178校 513名</td> </tr> <tr> <td>出前授業</td> <td>104校 7,989名</td> </tr> <tr> <td>市内小中学校利用抽選会</td> <td>194校</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 野外活動プログラムの開発及び指導助言</p> <p>自然環境を生かした野外プログラムや施設を活用した室内プログラム、北国ならではの雪中プログラム等を研究・開発し利用団体への提供を行った。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">分類</th> <th style="width: 15%;">活動プログラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">野外活動</td> <td>夏 自然体験 野牛山登山、自然観察、ハイキング、ウォークラリー、星座観察、オリエンテーリング、キャンプファイヤー、軽スポーツ、ナイトハイキング、沢探検、滝めぐり、火起こし体験、自然体験活動ゲーム</td> </tr> <tr> <td>冬 自然観察、星座観察、スノーシュートレッキング、チューブすべり、アニマルトラッキング、イグルー作り、スノーホッケー、歩くスキー、スノークラフト、スノーキャンドル作り、かまくら体験、雪合戦</td> </tr> <tr> <td>野外炊事(5~10月) 薪割り体験、飯ごう・羽釜炊さん、火起こし体験、カレーライス等各種メニューによる炊事活動</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	合同説明会(10回)	179校 208名	合同下見会(5回)	178校 513名	出前授業	104校 7,989名	市内小中学校利用抽選会	194校	分類	活動プログラム	野外活動	夏 自然体験 野牛山登山、自然観察、ハイキング、ウォークラリー、星座観察、オリエンテーリング、キャンプファイヤー、軽スポーツ、ナイトハイキング、沢探検、滝めぐり、火起こし体験、自然体験活動ゲーム	冬 自然観察、星座観察、スノーシュートレッキング、チューブすべり、アニマルトラッキング、イグルー作り、スノーホッケー、歩くスキー、スノークラフト、スノーキャンドル作り、かまくら体験、雪合戦	野外炊事(5~10月) 薪割り体験、飯ごう・羽釜炊さん、火起こし体験、カレーライス等各種メニューによる炊事活動	<p>合同説明会は、利用計画の作成や書類提出、当日までの流れについて、パワーポイントを活用して説明を行った。第8回目については、参加希望者がいなかったため中止とした。</p> <p>季節に合わせたプログラム及び指導助言を利用団体に寄り添った形で提供した。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 25%;">C</th> <th style="width: 25%;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">主たる利用団体である学校を対象とした事前説明会や下見会を行うことにより、利用者が活動についての見通しを持つことができ、宿泊学習が円滑かつ効果的に行われるための支援が充実している点で高く評価できる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">周囲の自然環境を活用し、魅力ある多様な野外プログラムが実施されており、自然体験活動を通じた青少年の健全育成に寄与している。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	主たる利用団体である学校を対象とした事前説明会や下見会を行うことにより、利用者が活動についての見通しを持つことができ、宿泊学習が円滑かつ効果的に行われるための支援が充実している点で高く評価できる。				周囲の自然環境を活用し、魅力ある多様な野外プログラムが実施されており、自然体験活動を通じた青少年の健全育成に寄与している。			
事業名	参加人数																														
合同説明会(10回)	179校 208名																														
合同下見会(5回)	178校 513名																														
出前授業	104校 7,989名																														
市内小中学校利用抽選会	194校																														
分類	活動プログラム																														
野外活動	夏 自然体験 野牛山登山、自然観察、ハイキング、ウォークラリー、星座観察、オリエンテーリング、キャンプファイヤー、軽スポーツ、ナイトハイキング、沢探検、滝めぐり、火起こし体験、自然体験活動ゲーム																														
	冬 自然観察、星座観察、スノーシュートレッキング、チューブすべり、アニマルトラッキング、イグルー作り、スノーホッケー、歩くスキー、スノークラフト、スノーキャンドル作り、かまくら体験、雪合戦																														
	野外炊事(5~10月) 薪割り体験、飯ごう・羽釜炊さん、火起こし体験、カレーライス等各種メニューによる炊事活動																														
A	B	C	D																												
主たる利用団体である学校を対象とした事前説明会や下見会を行うことにより、利用者が活動についての見通しを持つことができ、宿泊学習が円滑かつ効果的に行われるための支援が充実している点で高く評価できる。																															
周囲の自然環境を活用し、魅力ある多様な野外プログラムが実施されており、自然体験活動を通じた青少年の健全育成に寄与している。																															

分類	活動プログラム
室内活動	動的活動 室内キャンプファイヤー、キャンドルサービス、ミニバレエ、バドミントン、フォークダンス、ニュースポーツ、ウォークラリー、オリエンテーリング、フォトラリー、レクリエーション、自然体験活動ゲーム、ヒグマトランクキット
	クラフト活動 木の葉メール、小枝クラフト、風車、木のコマ、鳥笛、森のプラバン、マイ箸、木のマグネット、ネイチャーフォトフレーム、陶芸

▽ 青少年の集団生活・野外活動の普及・振興に関する業務

・青少年キャンプ事業

教育効果の高い自然体験活動の機会を提供し、野外活動・集団活動をとした青少年の健全育成を行うとともに、貧困など子どもを取り巻く社会や学校教育が抱える課題を解決するためのプログラムを実施した。

事業名	回数	参加人数
防災サバイバルキャンプ	4回※1	延べ60名
トライキャンプ	1回	29名
はじめてのスキーキャンプ	1回	47名
課題を抱える青少年を支援する体験活動プログラム	3回※1	延べ108名

※1 北海道胆振東部地震に伴う休館のため1回中止

・生涯学習事業

札幌市の野外教育施設として、生涯学習の観点から、札幌市の教育推進の目標及び教育推進の指針等、札幌市の生涯学習推進に関連する諸施策を踏まえ、野外教育の普及と啓発を図った。

事業名	回数	参加人数
自然観察ハイキング	1回※1	25名
しぜんのなかでみ～つけた！	1回※1	34名
軟石クラフト体験会	1回	38名
地域交流事業	1回	638名

※1 北海道胆振東部地震に伴う休館のため1回中止

・指導者養成事業

山の家が安定的・効果的に事業を実施していく上で、専門的知識を持つ指導者と活動趣旨を理解し協力が得られるボランティアの存在が重要である。幅広く指導者を輩出する目的で、野外活動の更なる普及振興を図る事業を実施した。

事業名	回数	参加人数
指導者ワークショップ	7回	延べ110名
キャンプで学ぼうキャンプ	3回	延べ22名
ボランティアスタッフ活動支援	15回	延べ37名
ボランティアフォローアップ研修会	2回	延べ7名

防災サバイバルキャンプでは地震などの災害をテーマに避難所設営などのプログラムを行った。北海道胆振東部地震で経験したことを振り返りながら実施することで、より効果の高い内容を提供することができた。

地域交流事業では、国営滝野すずらん丘陵公園の事業に参画し、来園者を対象に自然体験プログラムを提供した。公園と連携して実施することで、それぞれが持つ強みを生かした事業展開を行うことができた。

新規事業として、若者世代の体験活動に対する興味関心を高めるために「キャンプで学ぼうキャンプ」を実施した。事業参加者が実施後に山の家ボランティアに登録するなど、一定程度の効果があった。

防災サバイバルキャンプは、楽しみながら防災について学ぶことができる取組であり、有意義である。北海道胆振東部地震の発生で防災意識が高まっている中、社会的ニーズに合致しており、今後も発展的な実施を期待したい。

地域人材・地域資源を活用した特色のあるプログラムが実施されており、評価できる。継続実施により、施設の利用促進に繋がることを期待したい。

若者世代など、新たな層のボランティアの育成を行うとともに、ボランティアの活躍の場の提供に努めていきたい。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29実績</th> <th>H30計画</th> <th>H30実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実利用人数(人)</td> <td>46,639</td> <td>43,400</td> <td>46,612</td> </tr> <tr> <td>閑散期の一般利用団体数(件)</td> <td>45</td> <td>50</td> <td>63</td> </tr> </tbody> </table>		H29実績	H30計画	H30実績	実利用人数(人)	46,639	43,400	46,612	閑散期の一般利用団体数(件)	45	50	63	<p>平成29年度と比較すると、実利用人数は多少減少しているが、閑散期の利用団体数は増加していることから、利用促進に関する取組の効果が得られているものと考えられる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">前年度と比べると利用人数は減少しているが、仕様書に定める要求水準を上回っており、閑散期の利用団体数が増加していることから、利用促進に関する継続的な取組の成果が表れている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">引き続き、閑散期の利用促進や、利用者目線に立った施設運営に取り組んでいきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	前年度と比べると利用人数は減少しているが、仕様書に定める要求水準を上回っており、閑散期の利用団体数が増加していることから、利用促進に関する継続的な取組の成果が表れている。				引き続き、閑散期の利用促進や、利用者目線に立った施設運営に取り組んでいきたい。			
		H29実績	H30計画	H30実績																								
実利用人数(人)	46,639	43,400	46,612																									
閑散期の一般利用団体数(件)	45	50	63																									
A	B	C	D																									
前年度と比べると利用人数は減少しているが、仕様書に定める要求水準を上回っており、閑散期の利用団体数が増加していることから、利用促進に関する継続的な取組の成果が表れている。																												
引き続き、閑散期の利用促進や、利用者目線に立った施設運営に取り組んでいきたい。																												
(6)付随業務	不承認 0件、取消し 0件、減免 273件、還付 0件 利用促進の取組 幼稚園、保育園向けのチラシを作成し、グループ施設をもつ南区の幼稚園に利用促進に向けたPR活動を行った。 また、当財団の特色である施設間のネットワークを最大限に活用し、市内公共施設等にパンフレットや利用案内を配布するなどの広報活動を行った。	広報さっぽろへの事業告知掲載の廃止に伴い、既存の民間メディアの活用やSNSを活用した情報発信に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">多様な手法で幅広く施設のPRや情報提供を行っている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">わかりやすく、利用しやすいホームページの構築に努め、引き続き内容の充実を行っていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	多様な手法で幅広く施設のPRや情報提供を行っている。				わかりやすく、利用しやすいホームページの構築に努め、引き続き内容の充実を行っていただきたい。																
A	B	C	D																									
多様な手法で幅広く施設のPRや情報提供を行っている。																												
わかりやすく、利用しやすいホームページの構築に努め、引き続き内容の充実を行っていただきたい。																												
広報業務 ウェブアクセシビリティについては、業者と打合せを行った。ただし、高額なため、予算配分を考慮しながら計画していきたい。 また、ホームページの充実を図った。施設紹介の写真の更新、写真や動画による山の家の案内などの配信を行った。また、広報紙を作成し市内小学校、当財団の施設等とおした配布のほか、SNSによる情報発信を行った。 ・自然体験活動情報誌「キャンプのちから」発行(年2回:各98,000部) ・さっぽろ・こども情報紙「あそぼ」発行(年6回:各95,000部) ・フェイスブック・ツイッターページの公開(フェイスブック投稿件数:95件)		引継ぎ業務 ※前期からの継続指定のため、引継業務なし																										
2 自主事業その他																												
自主事業 【トランクキット出張事業】 児童会館や「環境広場さっぽろ」等に出向き、トランクキットプログラムの提供により、ヒグマやエゾシカの生態を正しく理解し、人との共存について考えることを目的として実施した。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒグマトランクキット</td> <td>12回</td> <td>1,628名</td> </tr> <tr> <td>エゾシカトランクキット</td> <td>4回</td> <td>223名</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	回数	参加人数	ヒグマトランクキット	12回	1,628名	エゾシカトランクキット	4回	223名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">プログラムの実施をおして、ヒグマ・エゾシカの生態を知り、人間との共存について広く伝えることができた。また、大型の野生動物がすぐ身近に生息する札幌の自然の豊かさについて伝えることができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">新規事業として実施した。学生への職業体験機会の提供は、学生のキャリア形成に資することができた。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	プログラムの実施をおして、ヒグマ・エゾシカの生態を知り、人間との共存について広く伝えることができた。また、大型の野生動物がすぐ身近に生息する札幌の自然の豊かさについて伝えることができた。				新規事業として実施した。学生への職業体験機会の提供は、学生のキャリア形成に資することができた。							
事業名	回数	参加人数																										
ヒグマトランクキット	12回	1,628名																										
エゾシカトランクキット	4回	223名																										
A	B	C	D																									
プログラムの実施をおして、ヒグマ・エゾシカの生態を知り、人間との共存について広く伝えることができた。また、大型の野生動物がすぐ身近に生息する札幌の自然の豊かさについて伝えることができた。																												
新規事業として実施した。学生への職業体験機会の提供は、学生のキャリア形成に資することができた。																												
【インターンシップ受入事業】 東海大学、札幌プライダル&ホテル専門学校と連携し学生の職業体験の機会を設けることにより、若者のキャリア形成支援を行った。(7月～10月)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>受入校</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>札幌プライダル&ホテル専門学校</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>東海大学</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>	受入校	参加人数	札幌プライダル&ホテル専門学校	1名	東海大学	3名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">トランクキットプログラムは、生物多様性に対する理解の促進に寄与している。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">インターンシップ受入事業は、学生のキャリア形成はもとより、施設において行っている事業のPRの機会ともなることが期待できる。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	トランクキットプログラムは、生物多様性に対する理解の促進に寄与している。				インターンシップ受入事業は、学生のキャリア形成はもとより、施設において行っている事業のPRの機会ともなることが期待できる。										
受入校	参加人数																											
札幌プライダル&ホテル専門学校	1名																											
東海大学	3名																											
A	B	C	D																									
トランクキットプログラムは、生物多様性に対する理解の促進に寄与している。																												
インターンシップ受入事業は、学生のキャリア形成はもとより、施設において行っている事業のPRの機会ともなることが期待できる。																												
※北海道胆振東部地震に伴う休館のため9月5日～9日については中止																												

<p>【講師派遣事業】 札幌市生活科・総合的な学習教育連盟主催の研修会で、教員を対象にSDGsの理解を深めるためのワークショップを実施した。</p> <table border="1" data-bbox="370 226 974 321"> <tr> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> <tr> <td>1月10日</td> <td>17名</td> </tr> </table> <p>【パッケージプログラム提供事業】 定山溪小学校の総合的な学習の時間で6学年を対象にSDGsについて理解を深めるためのワークショップを実施した。</p> <table border="1" data-bbox="370 447 974 541"> <tr> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> <tr> <td>3月12日</td> <td>9名</td> </tr> </table> <p>【売店での物品販売及び自動販売機の設置】 窓口にてカップ麺等の物品販売を行うほか、自動販売機による清涼飲料水及びアイスクリームの提供を行い、利用サービスの向上に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="370 709 974 758"> <tr> <th>売上金額</th> <th>26,670円</th> </tr> </table> <p>(平成29年度実績:21,170円)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 第三者に対する委託業務、物品購入、パンフレット印刷等については、札幌市内の企業を積極的に活用した。</p>	実施日	参加人数	1月10日	17名	実施日	参加人数	3月12日	9名	売上金額	26,670円	<p>外部からの依頼に応じ、山の家で蓄積したノウハウを生かしたプログラムを提供することで、施設の活動への理解を深め、ESDの普及振興へつなげることができた。</p> <p>小学校からの依頼に応じて総合学習の一環としてSDGsのワークショップ実施をとおして青少年を対象にしたESDプログラムの提供ができた。</p> <p>利用団体の利用形態に合わせて売店の品揃えを変更する等の工夫を行い、売上金額の増加につながった。</p> <p>職員への周知を積極的に行い、市内企業の活用を行った。また、障がいのある方、高齢の方の利用時には、より手厚い対応を行った。</p>	<p>引き続き、市内企業の活用及び障がいのある方や高齢の方等に配慮した対応に継続して取り組んでいただきたい。</p>
実施日	参加人数											
1月10日	17名											
実施日	参加人数											
3月12日	9名											
売上金額	26,670円											
<p>3 利用者の満足度</p>												
<p>▽ 利用者アンケートの結果</p>												
<p>実施方法</p> <p>結果概要</p> <p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>入館時に1団体につき1枚のアンケートを配布し、退館時に回収。</p> <p>配布数:433件 回収数:405件(回収率:93.5%) ・利用のしやすさに対する満足度 87.3%(目標:80%以上) ・接遇に関する満足度 95.0%(目標:80%以上) ・山の家提供プログラムに対する満足度 89.0%(目標:80%以上) ・総合満足度 95.0%(目標:80%以上)</p> <p>【意見・要望①】 利用申請書類を簡略化してほしい。 【対応】 職員間でプロジェクトチームを組み、申請書類の簡便化を実施した。(複数存在したエクセルデータを1つのエクセルデータにまとめる、同一情報は、1箇所に入力するとすべてのシートに反映される等の改訂を行った。)令和元年度より、新様式での運用を開始している。</p> <p>【意見・要望②】 食堂スタッフの指導が厳しい。 【対応】 その都度、山の家職員から食堂スタッフに状況を伝え、団体の利用形態に寄り添った対応策を検討した。</p>	<p>意見・要望があった時点で委託業者を含めた職員間での情報共有・検討を行い、改善が必要な指摘については改善を行うことで、利用満足度の向上に努めた。その結果、全項目の数値目標を達成することができた。</p> <p>また、退館前の声掛けの徹底を図り、アンケート回収率も9割以上を維持することができた。</p> <p>利用者からの要望を受け、利用書類の簡便化に向けた整理を行い、平成31年4月より運用を開始している。(再掲)</p>	<table border="1" data-bbox="1177 1134 1344 1165"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> <p>全ての項目で仕様書に定める目標水準を上回る結果となった。また、アンケート回収率が90%を超えており、利用者意見の把握に努めていることは高く評価できる。今後も高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望を踏まえ、利用申請書類の更なる簡便化を図るなど、利用者満足度の向上に努めていただきたい。</p>	A	B	C	D					
A	B	C	D									

4 収支状況				A	B	C	D
▽ 収支 (千円)							
項目	H30計画	H30決算	差(決算-計画)				
収入	219,794	208,103	▲ 11,691				
指定管理業務収入	218,803	207,234	▲ 11,569				
指定管理費	124,686	124,686	0				
利用料金	82,680	72,471	▲ 10,209				
その他	11,437	10,077	▲ 1,360				
自主事業収入	991	869	▲ 122				
支出	222,602	210,781	▲ 11,821				
指定管理業務支出	222,350	210,580	▲ 11,770				
自主事業支出	252	201	▲ 51				
収入-支出	▲ 2,808	▲ 2,678	130				
利益還元	0	0	0				
法人税等	0	0	0				
純利益	▲ 2,808	▲ 2,678	130				
▽ 説明							
<p>・利用料金収入においては、9月に発生した台風及び直後の北海道胆振東部地震による利用団体数(特に一般団体)の減少、また、1団体ごとの団体規模の縮小(特に高校、中学校)により、中学生以上の利用人数が減少し、計画対比10,209千円の減額となった。</p> <p>・その他収入においても、上述のとおり震災の影響による事業中止に伴う事業収入の減少、利用人数減少に伴う給食業務手数料収入の減少があったことから、計画対比1,360千円の減額となった。</p> <p>・自主事業収入においては、計画達成とはならなかったが、トランクキット出張事業(ヒグマ・エゾシカ)の実施件数は維持できている。また、少額ながら物品販売収入は年々増加してきている。</p> <p>・指定管理業務支出においては、灯油単価の高騰に伴う燃料費の増額及び震災後の施設内環境整備に伴う役務費の増額等により、計画対比11,770千円の増額となった。</p> <p>・自主事業支出においては、トランクキット出張事業に係る物品及び売店用の物品購入を行っている。売店用の物品は、利用団体の利用形態に合わせて、賞味期限等を考慮しながら品数を取り揃えることによって、計画対比51千円の減少となった。</p>							
				震災の影響等による収入の大幅な減額があったものの、支出の抑制にも努めた。特に、支出に関しては、職員による施設の日常点検及び専門業者による設備機器の点検により、設備・物品等の破損が軽微なうちに迅速に対処することで、最大限の抑制に努めた。また、平成30年度は、今期指定管理期間の初年度だったことから、今後5年間を見通し、利用者が安全・快適に過ごせるよう、中長期的な施設整備(寝具、炊事用具の購入等)を行い、利用者サービスの向上に努めた。	自主事業収入については計画を下回っているものの、物品販売収入が増加していることなど、事業の充実に及び安定した施設運営に向けて努めていることがうかがえる。震災の影響により、利用料金収入が減少するとともに復旧に係る支出が増加したが、その他の項目を節約して執行したため、大幅な利益減とはならなかった。5年間の指定期間を通して計画的に業務を実施し収支バランスを考慮した効率的かつ安定的な施設運営に努めていただきたい。		

<確認項目> ※評価項目ではありません。		適	不適
▽ 安定経営能力の維持	<p>9月に発生した台風及びその直後の北海道胆振東部地震の影響による利用団体数の減少、1団体ごとの人数規模の縮小による利用料金収入の減少はあったが、当初目標の実利用人数43,400人(達成状況:44,612人)及び閑散期の一般利用団体数50団体(達成状況:63団体)は、いずれも達成することができた。</p> <p>上述のとおり、震災等に伴う利用料金の収入減少はあったが、平成30年度は今期指定管理期間の初年度であることから、利用者が安全・快適に過ごせる中長期的な環境整備に努めるとともに、指定管理期間5年間を見通した収支バランスがとれるよう執行した。</p>		

<p>▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各条例の規定にのっとり、適切に対応した。 ・情報公開請求はなかった。 ・オンブズマンの実地調査はなかった。 ・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の基本理念にのっとり、暴力団の活動に施設を利用させないことや、委託や物品購入等、暴力団や暴力団関係者を契約の相手方としないなど、暴力団排除に積極的に取り組んだ。 		<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">適</td> <td style="text-align: center;">不適</td> </tr> </table>	適	不適
適	不適			

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>平成30年4月より新たな指定管理業務期間を迎え、今後の5年間を見据えた中長期的な視点に立ち「非常時を生き抜くための力を育むプログラム」「学校教育と連動した野外学習プログラム」「ESD・SDGsの視点を意識したプログラム」等の調査・研究開発を行った。</p> <p>主催事業等での実践をとおして、見直しや改修を行いプログラムの質を高めた。</p> <p>また、そのプロセスの中で新たな課題にチャレンジする姿勢を重視し、職員の人材育成を行った。</p> <p>1年間の取組で「非常時を生き抜くための力を育むプログラム」「ESD・SDGsの視点を意識したプログラム」については、道半ばではあるが利用者への提供可能な水準に近づきつつあると感じる。</p> <p>あわせて、施設が持つ3つの機能(自然体験の場、自然環境における集団生活の場、野外活動研修の場)を最大限に発揮した運営を行うため、南区の持つ地域資源である札幌軟石を生かした事業、滝野すずらん丘陵公園の豊かな自然環境やフィールドを活用した事業の実施をとおして地域や関係機関とのつながりを強化した。</p>	<p>施設運営等事業については、</p> <p>(ア)新たな視点を取り入れた野外学習プログラムについて普及に向けた取組を行う。</p> <p>(イ)利用者向けプログラムの質的向上を見据え、事業実施においては、宿泊利用等へのプログラムへの還元に留意してアクティビティ等の立案・実施を行う。</p> <p>(ウ)関係機関との連携強化について、利用の各学校・団体はもちろん、滝野すずらん丘陵公園、芸術の森地区連合会等の地域団体、大学専門学校等との連携強化に努める。</p> <p>(エ)利用促進計画においては、道内の各学校、認定こども園、民間企業の社員研修、大学ゼミ・サークル等に積極的なPRを行い、特に閑散期(4月、11月、12月、3月)の利用促進を図る。</p> <p>自主事業においては、平成30年度より研究開発を進めているパッケージプログラムについて、年度内に団体への一部提供を開始する。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全体を通して目標水準が達成されている。特に、自主事業において防災キャンプや地域資源を活用した特色のあるプログラムを実施するなど、魅力ある野外活動プログラムの開発及び提供に努めていることは高く評価できる。</p> <p>また、学校を対象とした事前説明会や下見会、出前授業の実施回数が増加しており、宿泊学習の学習効果を高めるための支援の充実に努めている。</p> <p>さらに、豊かな自然環境の中で青少年の健全育成を図るという施設の設置目的を十分に理解し、利用者の視点に立った対応を心がけていることにより、高い利用者満足度が保たれている。利用者アンケートの回収率の高さは特筆すべき点であり、利用者の声を施設運営に取り入れ、より良い施設運営につなげていこうとする姿勢は高く評価できる。</p>	<p>①閑散期の利用促進 学校利用の減少する11月や12月に、学校以外の利用者をいかに呼び込めるかが課題となる。魅力的なプログラムの開発や地域に根差した事業の展開、広報の強化など利用者増加に向けた工夫に努めていただきたい。</p> <p>②事前手続きの簡便化 利用申請書類の様式を改善し、従前に比べて大幅に記載内が整理されたことは評価できる。初めて記載する利用者にもわかりやすいように、今後も継続して検討・改善を行っていただきたい。</p>